

内令
要
登
載

内令第九百九十三號

特設艦船部隊定員令中左ノ通改正セラル

昭和十六年九月一日

海軍大臣 及 川古志郎

「特設警備隊定員表」ヲ「特設警備隊定員表 其ノ一」ニ改ム
特設警備隊定員表其ノ二ヲ別表ノ如ク定ム

(別表一葉添)

(内令提要卷一、五六二ノ一頁參照)

内令

一〇三五

0031

内令
要
登
載

内令
要
登
載

内令第九百九十四號 (所要ノ向ヘ配付)

内令第九百九十五號 (所要ノ向ヘ配付)

内令第九百九十六號 (所要ノ向ヘ配付)

内令第九百九十七號

驅逐隊編制中左ノ通改定セラル

昭和十六年九月一日

海軍大臣 及 川古志郎

第七驅逐隊ノ項中「朧、」及「漣」ヲ削ル

(内令提要卷一、六八頁参照)

内令第九百九十八號

特設驅潛隊編制中左ノ通改定セラル

内令

一〇四三

0033

内令
登載

内令

一〇四四

昭和十六年九月一日

海軍大臣 及 川古志郎

第六十二驅潜隊ノ項ノ次ニ左ノ二項ヲ加フ

第六十三驅潜隊 第三昭南丸、第三文丸

第六十四驅潜隊 第十昭南丸、第十一昭南丸

(内令提要卷一、一四二ノ五頁参照)

内令第九百九十九號

特設掃海隊編制中左ノ通改定セラル

昭和十六年九月一日

海軍大臣 及 川古志郎

第十三掃海隊ノ項中「羽衣丸、能代丸、」ヲ削リ同項ノ次ニ左ノ二項ヲ加フ

第十四掃海隊 玉丸、第二玉丸、羽衣丸、能代丸

(内令提要卷一、一四二ノ五頁参照)

0034

内令
要登載

内令第千號

横須賀鎮守府警備驅逐艦

驅逐艦 野分

驅逐艦 舞風

右練習兼警備驅逐艦ト定メラル

昭和十六年九月一日

海軍大臣 及 川古志郎

内令
要登載

内令第千一號

汽船 香取丸

右特設砲艦トシ舞鶴鎮守府所管ト定メラル

昭和十六年九月一日

海軍大臣 及 川古志郎

内令
要登載

内令第千二號

吳鎮守府所管

内令

一〇四五

0035

右舞鶴鎮守府所管ト改ム

昭和十六年九月一日

海軍大臣 及川古志郎

特設掃海艇 第五十一播州丸
特設掃海艇 第六博多丸

内令第千三號

昭和十五年内令第八百七十八號中「第六十二驅潜隊」ヲ

「第六十二驅潜隊
第六十三驅潜隊
第六十四驅潜隊」ニ改ム

昭和十六年九月一日

海軍大臣 及川古志郎

参照 前記内令（本年内令第五十二號改）ハ第一驅潜隊等ノ人員臨時増減ノ件ナリ

内令第千四號

昭和十六年内令第八百四十五號ハ之ヲ廢止ス



0036

昭和十六年九月一日

海軍大臣 及 川古志郎

参照 廢止内令ハ軍艦神威ノ人員臨時減員ノ件ナリ

内令第千五號

昭和十六年内令第百十三號中「兵科特務士官、准士官、附、兼務一人」及「兵曹、水兵、附、附、兼務二人（特修兵適宜）（暗號）」ヲ削ル
兼務五人（掌電信兵）
昭和十六年九月一日
海軍大臣 及 川古志郎

参照 前記内令ハ支那事變中南道艦隊司令部ニ人員臨時増置ノ件ナリ

内令第千六號

當分ノ間左ノ通人員ヲ臨時増置ス
昭和十六年内令第六百五十五號ハ之ヲ廢止ス

内令

一〇四七

0037

内令

一〇四八

昭和十六年九月一日

海軍大臣 及 川古志郎

第四港務部

兵科特務士官、准士官 附 三人

兵 曹、水 兵 十五人（特修兵適宜）
（舞鶴鎮守府在籍者）

参照 廢止内令ハ第四艦隊司令部（港務關係業務ニ充ツベキモノ）ニ人員臨時増設ノ件ナリ

内令第七號

昭和十七年内令第三〇九號
ヲ不効トス

當分ノ間左ノ通人員ヲ臨時増減ス

昭和十四年内令第二百三十六號ハ之ヲ廢止ス

昭和十六年九月一日

海軍大臣 及 川古志郎

軍令部

増員



0038

機關中少佐 滿洲國在勤帝國
大使館附武官附 一人(軍令部部員ヲ兼務ス)

減員

中少佐、大尉 滿洲國在勤帝國
大使館附武官輔佐官 一人
少佐、大尉 滿洲國在勤帝國
大使館附武官附 一人

參照 前記内令ハ軍令部ノ人員臨時減員ノ件ナリ

内令第千八號

昭和十六年内令第百八十二號中「特設工作艦松榮丸」ヲ「特設工作艦松榮丸、山彦丸」ニ、備考ノ部「松榮丸」ヲ「松榮丸及山彦丸」ニ改ム
本令ハ昭和十六年十月十五日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十六年九月一日

海軍大臣 及川 古志郎

參照 前記内令ハ特設工作艦松榮丸ニ人員臨時増置ノ件ナリ

内令

一〇四九

0039

内令第九千九號

昭和十五年内令第九百號中左ノ通改正ス

昭和十六年九月一日

海軍大臣 及 川古志郎

横須賀鎮守府ノ部中

横須賀	一八	一六	二
海兵團			

横須賀	一八	一八	二
海兵團			

第七				四各艦
驅逐隊				

第七				三各艦
驅逐隊				

「澤風」ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

隴					一
漣					一

「能代丸」ノ項ヲ削ル

ニ改メ

0040

内令

佐世保鎮守府ノ部中

第二十六 潜水隊 (三隊附) (三各艦)	佐世保 海兵團 一三 一二 三	第十三 掃海隊 一	第四 防備隊 六 七	第二十六 潜水隊 (三隊附) (三各艦)	佐世保 海兵團 一三 一二 三	第十四 掃海隊 (一隊附)	第三 掃海隊 一	第四 驅潛隊 一	第五 警備隊 一 一	第五 防備隊 六 一	第四 防備隊 七	第四 港務部 (一部員) (一部員)
ヲ	ヲ	ヲ	ヲ	ニ改メ	ニ、	ニ改メ	ニ改メ	ニ、	ニ、	ニ、	ニ、	ニ、

一〇五一

0041

「呂號第六十潜水艦」ノ項ヲ削ル

「第六防備隊」ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

第五十一	一	一	一	
警備隊				

舞鶴鎮守府ノ部中「舟山島警備隊」ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

第五十二	一	一	一	
警備隊				

備考第一號中「能代川丸」ヲ削ル

同第二號中「及第八十一警備隊」ヲ、「第五十一警備隊、第五十二警備隊、第五十三警備隊及第八

十一警備隊」ニ改ム

同第六號中「横須賀海兵團三人」ヲ「横須賀海兵團五人」ニ「佐世保海兵團二人」ヲ「佐世保海兵

團三人」ニ改ム

参照 前記内令ハ分隊長、中少尉、機關中少尉及主計科尉官定員中特務士官ヲ以テ充ツベキ位置ヲ定ムル件ナリ

0042

内令第千十號

昭和十六年内令第八百九十三號中「機關中少佐 部員 兼務二人」ヲ「機關中少佐 部員 兼務二人」ニ改ム

昭和十六年九月一日

海軍大臣 及 川古志郎

參照 前記内令ハ横須賀海軍軍需部ニ人員臨時増置ノ件ナリ

内令第千十一號

昭和十五年内令第八百九十八號中左ノ通改正ス

昭和十六年九月一日

海軍大臣 及 川古志郎

表中驅逐艦ノ項「特務大尉各一人」ノ上欄「夕風、」ノ下ニ「追風、」ヲ加ヘ同項「特務大尉 各一人」ノ上欄「追風、」ヲ削ル

參照 前記内令ハ艦船部隊ニ於ケル科長兼分隊長タル職員缺員中當該科ノ特務大尉ヲ分隊長トシテ臨時増置スル件ナリ

内令

一〇五三

0043

内令
要
登
載

内令

一〇五四

内令第千十二號

特設海軍氣象部處務規程左ノ通改正ス

昭和十六年九月一日

海軍大臣 及 川古志郎

第五條ヲ削ル

(昭和十六年内令第百六十六號參照)

内令第千十三號

昭和十六年内令第千九百九十九號
本號廢止

當分ノ間左ノ通人員ヲ臨時増減ス

昭和十六年内令號八百九十五號ハ之ヲ廢止ス

昭和十六年九月一日

海軍大臣 及 川古志郎

増員

第四艦隊司令部

0044



技	師	附	一人
父島海軍通信隊			
技	師	隊附	兼務一人
第三根據地隊司令部			
技	師	附	兼務二人
兵	曹、水	兵	二人(掌電信兵)
機關兵曹、機關兵			二人(掌機兵 內火)
第四根據地隊司令部			
技	師	附	兼務一人
技	手	附	兼務七人
第五根據地隊司令部			
技	手	附	兼務一人
第六根據地隊司令部			
技	手	附	兼務六人

内令

一〇五五

0045

内令

一〇五六

兵 曹、水 兵

二人(掌電信兵)

機關兵曹、機關兵

二人(掌機兵 内火)

(横須賀鎮守府在籍者)

第四海軍氣象部

兵 曹 長

兼務一人

兵 曹、水 兵

五人(掌電信兵 三)

主 計 兵 曹

一人(掌經理兵)

減員

第四海軍氣象部

技 手 附

兼務四人

備考

- 一 本人員ハ南洋方面氣象關係業務ニ當ラシムルモノトス
- 二 第四艦隊司令部附技師一人ハ部外者ヲ以テ右以外ノ兼務技師及技手ハ水路部職員ヲ以テ充ツ
- 三 第四海軍氣象部附兼務兵曹長一人ハ第三通信隊附ヲ以テ充ツ

参照 廢止内令ハ第四艦隊司令部等ノ人員臨時増減ノ件ナリ

0046



内令第千十四號

昭和十六年令 第三三五號
ニテ本號廢止
特設特務艇(特設驅潜隊、特設掃海隊)ノ所屬別表ノ通定ム

昭和十六年九月一日

海軍大臣 及 川古志郎

(別表一葉添)

内令第千十五號

昭和十六年内令第三百七十一號中「判任官待遇 附 兼務三人」ヲ「判任官待遇 附 兼務四人」ニ改ム

昭和十六年九月一日

海軍大臣 及 川古志郎

参照 前記内令ハ海南警備府(軍前處分會議因禁揚動務)ニ人員臨時増置ノ件ナリ

内令第千十六號

昭和十六年内令 第一五三號
ニテ本號廢止
支那事變中左ノ通人員ヲ臨時増置ス

内令

一〇五七

0047

昭和十六年内令第五百七十七號中「技師 附 五人(部外者)」ヲ「技師 附 六人(部外者)」ニ
改ム

昭和十六年九月一日

海軍大臣 及川古志郎

海南警備府

高等文官 附 一人(部外者)

判任文官 附 三十人(部外者)

参照 前記内令ハ海南警備府ニ人員臨時増設ノ件ナリ

0048

防伯佐	隊備防湊大	隊備防賀須横	所屬	
			捕獲網艇設	防潛網艇設
			特設敷設艇	特設驅潛艇
第三日東丸 第五日東丸 第七日東丸 第十三日東丸 364	第十六日東丸 野柳丸 九龍丸 水上丸 文山丸 484	瓊山丸 和美丸 卑南丸 鷺州丸 一新丸 瑞光丸 員山丸 669		
	第二朝洋丸 160		特設掃海艇	
	第一岩手丸 惠成丸 寶成丸 第三日之川丸 進政丸 海和丸 572		特設監視艇	

(別表)

特設特務艇ノ所屬

特設特務艇名

(昭和十六年内令第千十四號)

0049

内令第一千七百七號

昭和十六年内令第二百六十二號中「六人」ヲ「五人」ニ、「二百十三人」ヲ「二百三人」ニ、特修兵ノ項「三一」ヲ「三〇」ニ、「四九」ヲ「四二」ニ、「二二」ヲ「一〇」ニ改ム

昭和十六年内令第三百九十號中「十九人」ヲ「二十人」ニ、「七」ヲ「八」ニ、「六百八十二人」ヲ「六百九十二人」ニ、下士官、兵内譯ノ項吳鎮守府在籍者ノ欄中「二百四人」ヲ「二百十四人」ニ、

「特修兵適宜」ヲ
「榮信號兵
 特修兵適宜(暗號)ニ
 其ノ他特修兵適宜」ニ改ム

昭和十六年九月一日

海軍大臣 及 川古志郎

參照 昭和十六年内令第二百六十二號ハ第二遣支隊司令部ニ人員臨時増置ノ件
 同年内令第三百九十號ハ海南警備府ニ人員臨時増置ノ件

内令第一千八百號

昭和十八年内令第九七九號
 本號廢止

當分ノ間左ノ通人員ヲ臨時増減ス

昭和十五年内令第八百七十號中「増減」ヲ「増置」ニ改メ「増員」及第十四航空隊ノ項「接手」

内令

一〇五九

0050

廢止

廢止

内令

一〇六〇

入「乃至水路部ノ項「技手 一人」ヲ削ル

昭和十六年九月一日

海軍大臣 及川古志郎

増員

海南警備府

技手 一人

減員

水路部

技手 一人

参照 前記内令ハ第十二航空隊等ノ人員臨時増減ノ件ナリ

内令第一千九號

昭和十六年四月 第一〇八六號
ニシテ本號廢止

當分ノ間左ノ通人員ヲ臨時増置ス

昭和十四年内令第七百四十六號中「四人」ヲ「三人」ニ、「三十八人」ヲ「三十六人」ニ、「六」ヲ

0051

「四」ニ、「二十四人」ヲ「二十三人」ニ、「百五十八人」ヲ「百五十二人」ニ、「百五十九人」ヲ

「百五十六人」ニ、「看護兵五人」ヲ「看護兵四人」ニ、「十八人」ヲ「十六人」ニ改ム

昭和十六年九月一日

海軍大臣 及川古志郎

第八十一警備隊(第二〇一基地ノ保管警備ニ充ツベキモノ)

兵 曹 長 一人

兵 曹、水 兵 八人(掌電信兵 二)

機關兵曹、機關兵 四人

看 護 兵 一人

主 計 兵 二人

参照 前記内令ハ第十四航空隊(警備關係員)ニ人員臨時増設ノ件

内 令

1061

0052

内令提
要登載

内令第千二十號

大正十二年内令第百十三號中左ノ通改正ス

昭和十六年九月三日

海軍大臣 及 川古志郎

軍令部ノ項ヲ左ノ如ク改ム

軍令部	主計科尉官	四人
	特務士官、准士官	二人
		當分ノ間

参照 前記内令ハ派遣勤務員ヲ置クベキ職及人員等ノ件ナリ(内令提要卷一、四七二頁)

内令第千二十一號

昭和十六年内令第四百八十八號中左ノ通改正ス

昭和十六年九月三日

海軍大臣 及 川古志郎

末尾ニ左ノ如ク加フ

内令

一〇六三

0053



内令

一〇六四

特設砲艦 生田丸、長田丸

機關兵曹、機關兵 二人

參照 前記内令ハ第一砲艦隊等ニ人員臨時増置ノ件ナリ

内令第千二十二號 昭和十七年內令第一五九五號

當分ノ間左ノ通人員ヲ臨時増置ス

昭和十六年九月三日 海軍大臣 及川古志郎

軍艦 鳳翔

機關兵曹、機關兵 六人(掌機兵 普鐘一)

0054

内令第千二十三號

當分ノ間左ノ通人員ヲ臨時増置ス

昭和十六年九月四日

海軍大臣 及 川古志郎

横須賀海軍通信隊

主計兵 五人

内令

一〇六五

0055

内令
削除

内令第二十四號

右特設運送艦トシ横須賀鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク

汽船 淺香丸

右特設運送船(雜用船)トシ吳鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク

汽船 金龍丸

昭和十六年九月五日

海軍大臣 及川古志郎

内令
登載

内令第二十五號

右特設巡洋艦トシ横須賀鎮守府所管ト定メラル

汽船 淺香丸

汽船 金龍丸

汽船 金剛丸

汽船 栗田丸

汽船 愛國丸

右特設巡洋艦トシ吳鎮守府所管ト定メラル

内令

一〇六七

0056

右特設砲艦トシ横須賀鎮守府所管ト定メラル

汽船 慶興丸

汽船 兩徳丸

汽船 妙見丸

汽船 千洋丸

汽船 壽山丸

汽船 華山丸

右特設砲艦トシ佐世保鎮守府所管ト定メラル

汽船 億洋丸

汽船 山東丸

右特設砲艦トシ舞鶴鎮守府所管ト定メラル

漁船 第二勢榮丸

漁船 第三芙蓉丸

漁船 第一金寶丸

内令

一〇六九

0058

内令

漁船 幸生丸
漁船 第一吉祥丸
漁船 第二寶松丸
漁船 壽々丸
漁船 三福丸
漁船 寶榮丸
漁船 清勝丸
漁船 第二稻荷丸
漁船 東日本丸
漁船 第三八千代丸
漁船 榮吉丸
漁船 海神丸
漁船 海竜丸
漁船 第三徳丸

一〇七〇

0059

内令

右特設監視艇トシ横須賀鎮守府所管ト定ム

漁船 第一海南丸	漁船 宮丸	漁船 大鷗丸	漁船 第七明神丸	漁船 第二東日本丸	漁船 國宮丸	漁船 第八金比羅丸	漁船 第八事代丸	漁船 第二海運丸	漁船 威應丸	漁船 第七豐丸	漁船 第五福一丸	漁船 第三松盛丸
----------	-------	--------	----------	-----------	--------	-----------	----------	----------	--------	---------	----------	----------

一〇七一

0060

右特設監視艇トシ佐世保鎮守府所管ト定ム

漁船 第二海南丸

✓ 汽船 日朗丸

✓ 汽船 尾上丸

✓ 汽船 新玉丸

✓ 汽船 興業丸

✓ 汽船 日出丸

右特設運送船(給兵船)トシ舞鶴鎮守府所管ト定ム

✓ 汽船 興安丸

✓ 汽船 日豊丸

右特設運送船(給水船)トシ佐世保鎮守府所管ト定ム

汽船 天洋丸

右特設運送船(給糧船)トシ吳鎮守府所管ト定ム

汽船 長光丸

0061

内令

右特設運送船(給糧船)	トシ舞鶴鎮守府所管ト定ム	汽船	東光丸
右特設運送船(給炭船)	トシ吳鎮守府所管ト定ム	汽船	第二播州丸
右特設運送船(給油船)	トシ吳鎮守府所管ト定ム	汽船	夕張丸
右特設運送船(給油船)	トシ佐世保鎮守府所管ト定ム	汽船	健洋丸
右特設運送船(給油船)	トシ佐世保鎮守府所管ト定ム	汽船	黒潮丸
右特設運送船(雜用船)	トシ横須賀鎮守府所管ト定ム	汽船	乾洋丸
右特設運送船(雜用船)	トシ舞鶴鎮守府所管ト定ム	汽船	康福丸

昭和十六年九月五日

海軍大臣 及川古志郎

一〇七三

0062

内令第千二十七號 (所要ノ向ニ配付ス) 限定配付シ一般ニ配付セズ

内令第千二十八號

昭和十五年内令第八百九十八號中左ノ通改正ス

昭和十六年九月五日 海軍大臣 及 川古志郎

表中軍艦ノ項機關特務大尉各一人ノ上欄「巖島、」ノ下ニ「沖島、」ヲ、驅逐艦ノ項特務大尉各一人ノ上欄「菊月」ノ下ニ「朝風、文月」ヲ加ヘ同 特務大尉各一人ノ上欄「朝風、」及「文月、」ヲ削ル、同機關特務大尉各一人ノ上欄「磯波、」ヲ削リ「狹霧、」ノ下ニ「潮、」ヲ、「峯雲、」ノ下ニ「浦風、」ヲ加フ

参照 前記内令ハ艦船部隊ニ於ケル科長兼分隊長タル職員缺員中當該科ノ特務大尉ヲ分隊長トシテ臨時増置スル件ナリ

内令第千二十九號

昭和十五年内令第九百號中左ノ通改正ス

昭和十六年九月五日 海軍大臣 及 川古志郎

内令

一〇七七

0064

内令

横須賀鎮守府ノ部中

山城
三
四
二
一

ヲ

小牧丸
二

ヲ

「おねん丸」ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

慶洋丸
二

笠置丸
二

ヲ

山城
三
四
一
二

ニ

浅香丸
二

ニ

改メ

笠置丸
三

ニ

瑞興丸

二

まがね丸

二

永福丸

二

八海山丸

二

0065

一〇七八

内令

愛國丸	栗田丸	金龍丸	金剛丸
一	一	一	一

「金城山丸」ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

大鯨
一
一
一
一

吳鎮守府ノ部中

航第 空隊三
一
二

掃第 海隊六
一

ヲ

ヲ

ヲ

大鯨
一
一
一
一

ニ改メ

航第 空隊三
二
一

ニ改ム

掃第 海隊六
(隊附)
一

ニ改ム

昭徳丸	静海丸
一	一

一〇七九

0066

舞鶴鎮守府ノ部中

第一航空隊
一
二
三
四

ヲ

富士川丸	三
射水丸	二
	一

ヲ

金剛山丸
二
一

ヲ

第一航空隊
二
三
四
五

ニ改ム

讚岐丸	二
富士川丸	三
射水丸	二
辰宮丸	二
辰春丸	二
	一

ニ改ム

金剛山丸	二
億洋丸	二
山東丸	二

ニ改ム

備考第一號中「靖國丸、」ノ下ニ「辰宮丸、辰春丸、」ヲ、「笠置丸、」ノ下ニ「八海山丸、永福丸、まがね丸、瑞興丸、」ヲ加ヘ「及金剛山丸」ヲ、「金剛山丸、億洋丸及山東丸」ニ改メ「射水丸、」

内令

一〇八一

0068

内令

一〇八二

ノ下ニ「辰宮丸、辰春丸」ヲ加フ

「山陽丸、君川丸、富士川丸、笹崎丸」ヲ「淺香丸、摩洋丸、加茂川丸、金剛丸、金龍丸、粟田丸、

愛國丸、山陽丸、君川丸、讚岐丸、富士川丸、笹崎丸、第一航空隊、第三航空隊」ニ改ム

同第二號中「機關科分隊長ノ中」ノ下ニ「君川丸及讚岐丸各一人ハ整備長兼分隊長ノ位置ニ、」ヲ加フ

同第四號中「第三」ヲ削ル

參照 前記内令ハ分隊長、中少尉、機關中少尉及主計科尉官定員中特務士官ヲ以テ充ツベキ位置ヲ定ムルノ件ナリ

内令
登載

内令第千三十號

支那事變中防備隊、特設防備隊ニ所屬又ハ所屬豫定ノ特設特務艇乗員中特務士官以下ハ當該特設特務艇ノ所管ニ拘ラズ防備隊、特設防備隊ノ補充鎮守府ヨリ之ヲ補充スルモノトス

昭和十六年九月五日

海軍大臣 及 川古志郎

0069

内令第千三十一號

支那事變中左ノ通人員ヲ臨時増置ス

昭和十六年九月五日

海軍大臣 及 川古志郎

廣東方面特別根據地隊（第六航空基地警備員ニ充ツベキモノ）

特務中少尉、兵曹長 附 四人

機關特務中少尉、機關兵曹長 附 一人

看護特務中少尉、看護兵曹長 附 一人

主計特務中少尉、主計兵曹長 附 一人

兵 曹、水 兵 百十七人 （掌砲兵 一、掌測的兵 三、掌電信兵 四、特修兵適宜（暗號）三）

整備 備 兵 曹 一人 （掌整備兵 高）

機關兵 曹、機關兵 百十七人 （掌機兵 丙火 五、掌電機兵 一）

工作兵 曹、工作兵 五人 （掌工兵）

看護 兵 曹 一人

内令

一〇八三

0070

内令

一〇八四

主計兵曹、主計兵 九人（掌經理兵 二、掌衣糧兵 一）
本人員ハ佐世保鎮守府在籍者ヲ以テ之ニ充ツ

内令第千三十二號

昭和十三年内令第六百十五號中「特務中少尉、兵曹長 附 一人」ヲ削ル

昭和十六年内令第六百三十七號中「整備兵曹、整備兵 四十人（掌整備兵〔高 一三八〕）ヲ「整備兵

曹、整備兵 三十九人（掌整備兵〔高 一三二〕）ニ改ム

昭和十四年内令第七百四十六號中左ノ通改正ス

昭和十六年九月五日

海軍大臣 及川古志郎

人員ヲ左ノ如ク改ム

軍醫少佐、軍醫大尉 分隊長 一人

軍醫科尉官 附 一人

特務大尉 中尉 分隊長 二人

機關特務中少尉、機關兵曹長 附 一人

0071

主計特務中少尉、主計兵曹長 附

一人

看一護

兵曹

一人

主計

兵曹

二人(掌理兵
掌衣糧兵)

水

兵

七十一人

機關

兵

六十人

看護

兵

四人

主計

兵

十人

昭和十三年内令第六百十五號ハ第十四航空隊ニ人員臨時増置ノ件
参照 昭和十四年内令第七百四十六號ハ第十四航空隊(整備關係員)ニ人員臨時増置ノ件
昭和十六年内令第六百三十七號ハ第十二航空隊及第十四航空隊ニ人員臨時増置ノ件

○正誤

本年内令第九百六十七號中「七月二十五日」ハ「八月二十五日」ノ誤

内令

一〇八五

0072

内令第千三十三號

當分ノ間左ノ通人員ヲ臨時増置ス

昭和十六年内令第七百十四號中「特務中少尉、兵曹長 附 一人」以下ヲ削ル

昭和十六年九月八日

海軍大臣 及 川古志郎

舞鶴海兵團

特務中少尉、兵曹長 附

一人

兵 曹、水 兵

十四人

(吾妻保管員、特修兵適宜)

機關兵曹、機關兵

三人

参照 前記内令ハ當分ノ間舞鶴海軍港務部ニ人員臨時増置ノ件ナリ

内令

一〇八七

0073

内令提
要登載

内令第三十四號

艦艇防備隊航空隊現狀報告規則左ノ通改正ス

（終）

大正元年九月九日

昭和十六年九月九日

海軍大臣 及 川口吉志郎

艦艇防備隊潜水艦基地隊航空隊現狀報告規則

第一條 艦艇防備隊潜水艦基地隊航空隊現狀報告ハ定期報告及臨時報告ノ二トス

定期報告ハ毎月一日附ヲ以テ之ヲ調製シ其ノ様式ハ軍艦（特務艦ヲ含ム以下同シ）ニ在リテハ第

一表ニ、驅逐艦、水雷艇、掃海艇及驅潛艇ニ在リテハ第二表ニ、潜水艦ニ在リテハ第三表ニ、防

備隊及潜水艦基地隊ニ在リテハ第四表ニ、海軍航空隊ニ在リテハ第五表ニ依ル

第二條 現狀報告ハ軍艦ニ在リテハ艦長（定員ヲ置カザルトキハ直接之ヲ保管スル者）、驅逐隊、潜

水隊、水雷隊、掃海隊、驅潛隊、防備隊、潜水艦基地隊及海軍航空隊ニ在リテハ其ノ司令（驅逐

艦、潜水艦、水雷艇、掃海艇、驅潛艇ニシテ司令ノ附近ニ在ラザルトキ又ハ隊ニ屬セザルモノハ

各其ノ長、定員ヲ置カザルトキハ直接之ヲ保管スル者）之ヲ調製シ一通宛ヲ海軍大臣、軍令部總

長、在籍ノ鎮守府司令長官及所屬長官ニ毎月頭三日以内ニ發送提出（海軍大臣及軍令部總長ニハ

内令

一〇八九

0074

直接) スベシ

第三條 定期報告ニハ記入例ニ示ス如ク艦艇ニ在リテハ船體、兵器、機關等ノ完否ノ現狀、前月中ノ行動作業ノ摘要等ヲ、防備隊、潜水艦基地隊及海軍航空隊ニ在リテハ營造物、兵器、附屬船艇等ノ完否ノ現狀等ヲ簡明ニ記載スベシ但シ其ノ記事前月ニ同ジキモノト雖モ之ヲ省略スルコトナク報告毎ニ之ヲ記載スルコトヲ要ス

艦艇ノ工事ニ關スル事項中戦闘航海ニ直接關係アル主要事項ハ關係工作廳ノ意見ヲモ參酌シ記載スルコトヲ要ス

航空母艦其ノ他航空機搭載中ノ艦船ニ在リテハ第五表ニ準ジ航空機ニ關スル事項ヲ記載シ添付スルコトヲ要ス

第四條 臨時報告ニハ臨時發生ノ必要事項ヲ記載スベキモノニシテ事件發生ノ都度速ニ報告(様式適宜)スルモノトス但シ急ヲ要スルモノハ先ヅ電信ヲ以テ其ノ大要(要スレバ工事日數共)ヲ報告シ後書面ヲ以テ其ノ詳細ヲ報告スベシ

第五條 艦艇ニ於テ臨時報告ヲ提出スベキ場合概ネ左ノ如シ

一 戦闘ノ爲ニ生ジタル損傷及擱岸、坐礁、衝突、火災等ノ事故共ノ他本艦艇ノ進退兵備上ニ關

0075

スル重要ノ事件發生シタルトキ

二 在役艦及特別役務艦ノ修理、改造又ハ兵器及機關ノ分解、開放、検査、手入等ニ著手シ急速發航ノ命令ニ從フコト能ハザルトキ、但シ其ノ竣工復舊ノ豫定期日ヲ併記スルモノトス其ノ期日ヲ變更シタルトキハ其ノ都度更ニ報告スルコトヲ要ス

三 艦艇ノ重要兵器ヲ一時陸揚セントスルトキ

四 前各號中ノ工事竣工若ハ復舊シ又ハ行動ニ差支ナキニ至リタルトキ

第六條 防備隊、潜水艦基地隊及海軍航空隊ニ於テ臨時報告ヲ提出スベキ場合概ネ左ノ如シ

一 戦闘其ノ他ニ依リ營造物、兵器、船艇等ニ毀損ヲ生ジ又ハ任務上ニ關スル重要ノ事件發生シタルトキ

二 重要ナル建築物等ノ修理、改造又ハ兵器若ハ船艇ノ検査、修理、手入等ニ著手シ急速防備ヲ實行スルコト能ハザルトキ但シ其ノ竣工復舊ノ豫定期日ヲ併記スルコトヲ要ス

三 前各號中ノ工事ノ竣工又ハ復舊シタルトキ

第七條 特設軍艦及特設特務艦ハ軍艦ニ、其ノ他ノ特設艦船ハ驅逐艦（監督官、監督官在ラザルトキハ船長、特設病院船ニ在リテハ病院長之ヲ調製ス）ニ、特設防備隊及特設基地隊ハ防備隊ニ、

内令

一〇九一

0076

内令

一〇九二

特設航空隊ハ海軍航空隊ニ準シ現状報告ヲ調製提出スベシ

附則

本令ハ昭和十六年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

(別表添)

(内令提要卷一、七八五頁参照)

0077

内令提
要登載

内令第千三十五號

艦艇類別等級別表中左ノ通改正ス

昭和十六年九月十日

海軍大臣 及川古志郎

驅逐艦、一等夕雲型ノ項中「卷雲」ノ下ニ「風雲」ヲ加フ

潜水艦、一等伊十五型ノ項中「伊號第四十三」ノ下ニ「伊號第四十五、伊號第四十九」ヲ加フ

驅潜艇、第十三號型ノ項中「第二十四號」ノ下ニ「第二十五號」ヲ、「第二十六號」ノ下ニ「第

二十七號」ヲ加フ

(内令提要卷三、三三頁参照)

内令提
要登載

内令第千三十六號

特務艇類別等級別表中左ノ通改正ス

昭和十六年九月十日

海軍大臣 及川古志郎

内令

一〇九三

0078

内令

一〇九四

特務艇、掃海特務艇ノ項中艇型欄ニ「第一號型」ヲ、特務艇名欄ニ「第一號、第二號」ヲ加フ
備考第二號中「第一號驅潛特務艇」ノ下ニ「第一號掃海特務艇」ヲ加フ

(内令提要卷三、三九頁参照)

内令第千三十七號

右本籍ヲ横須賀鎮守府ト假定ス

驅逐艦 風 雲

伊號第四十五潜水艦

伊號第四十九潜水艦

第二十五號驅潛艇

第二十七號驅潛艇

右本籍ヲ吳鎮守府ト假定ス

昭和十六年九月十日

海軍大臣 及川古志郎

0079

内令第千三十八號

右本籍ヲ横須賀鎮守府ト假定ス

昭和十六年九月十日

海軍大臣 及 川古志郎

第一號掃海特務艇
第二號掃海特務艇

内令第千三十九號

昭和十六年内令第七百四號中「技手 附 兼務一人」ヲ

「看護兵曹、看護兵 手 附 兼務二人」ニ改

昭和十六年九月十日

海軍大臣 及 川古志郎

参照 前記内令ハ第五海軍航空廠ニ人員臨時増置ノ件

内令

一〇九五

0080